

# ゆとにある農業経営の確立と魅力あるコミュニティの形成

～みんなで創ろう明るく住みよいまちづくり～

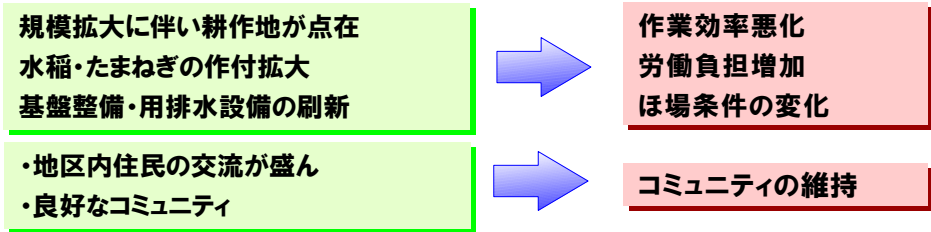
活動対象：中富良野町旭中北三地区（10戸：うち非農業者4戸）

労働負担の軽減と安定生産を目的に、水稲では鎮圧育苗技術と無代かき栽培の導入、タンパク仕分けに対応したゆめぴりかの収量・品質向上を支援した。たまねぎでは、基盤整備による土壌の化学性および物理性の変化に対応した、かん水技術の改善、リン酸の補給、砕土性の向上や透排水性改善を目指した取組みを支援した。家族内での働きやすい環境づくりに向けた話し合いを進め、具体的なルール作りを支援した。

経営主の平均年齢：49才（30代2人、40代1人、50代1人、60代2人）  
 労働力：3.3人  
 平均耕作面積：16.9ha（水田38.5ha、畑16.9ha、野菜45.7ha）  
 作付品目：たまねぎ39.7ha、水稲38.5ha、麦類16.1ha、スイートコーン1.5ha、にんじん1.2ha  
 アスパラガス0.6ha、ミニトマト0.3ha、いちご0.2ha、軟白長ねぎ0.1ha

## 1 課題の背景

ベベルイ川周辺の平坦地に位置し、水稲とたまねぎを中心とした複合経営



## 2 活動の経過

(1) 栽培技術の改善によるゆとりの確保と安定生産

(2) 家族内および地域内ルールの構築

活動年次	目標事項(提案事項)
H28 ～29	水稲育苗技術の改善 (鎮圧育苗技術の導入と拡大)
H30 ～R2	水稲省力化技術の導入 (無代かき栽培の導入と拡大)
H30 ～R2	ゆめぴりかの収量品質向上 (初期生育向上技術11項目の実践)

活動年次	目標事項(提案事項)
H28	たまねぎかん水方法の改善 (地上、地下かんがいの改善)
H29	水位棒活用によるたまねぎの かん水技術検討 (水位棒の活用)
H30 ～R2	基盤整備後のたまねぎほ場管 理改善 (雪踏み、サブソイルの低速施工)

活動年次	目標事項(提案事項)
H28 ～R2	働きやすく暮らしやすい環境 づくりの検討 (現状点検の実施) (家族内での目標共有) (具体的なルールの作成)
R2	コミュニティ維持発展に向け た検討 (検討会の開催)

## 3 活動の成果

(1) 栽培技術の改善による労働軽減と安定生産

### 水稲育苗技術の改善

- 足場を気にせず作業ができ苗質も揃う
- 鎮圧育苗最高！
- この技術を教えてもらってほんとによかった

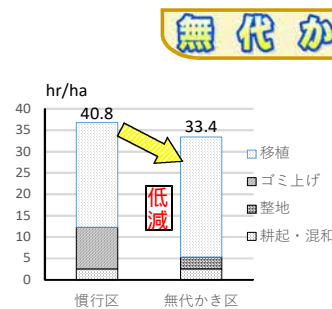


表1 収量と蛋白

	精玄米重 (kg/10a)	同左比 (%)	蛋白 (%)
慣行	587	-	7.5
1年目	597	102	6.9
2年目	703	120	7.4
3年目	628	107	7.3

全戸で導入

図1 耕起～移植作業時間

2作目以降の収量UP

## ゆめぴりかの収量品質向上

区分	耕起深 10~12cm (土壌分析に基づく)	適正 施肥 (土壌分析に基づく)	側条 施肥 有	刈酸 施用 有	育苗 日数 30~35日	移植時 草丈 10~13cm	移植時 葉数 3.6~4.3葉	適期 移植 5/25まで	栽植 密度 22~25株/m <sup>2</sup>	植付 深度 1.5~2cm	活着~幼穂形 成期水管理 浅水管理	11項目 中 達成数	収量 (kg/10a)	蛋白 (%)
B										x		8	560	6.4
C										x		9	718	7.5
E									x			10	604	7.1

収量は地区平均の103%、蛋白は目標の7.4以下を2戸がクリア

## 基盤整備後のたまねぎほ場改善

表2 水位棒・地下かんがい活用と生育結果

農業者	水位棒活用		地下かんがい		次年度 実施 意向
	観察	地下水位 の管理	実施 回数	効果 (感触)	
A	○	○	2	○	○
B	○	○	3	○	○
C	○	○	1	x	○
D	○	○	2	○	○

実施・はい = 未実施・いいえ = x

- ・降雨の時と地下かんがいの時で棒の上がり方が違うのがよくわかった
- ・水位棒は参考になったので全部の畑に設置したい
- ・もっと上がったのが見えやすいと良い
- ・かん水をしなくても地下水位が高いのが水位棒で確認できた
- ・穴を空ける道具があれば、好きな所に水位棒を設置したい



写真1 雪踏みの実施

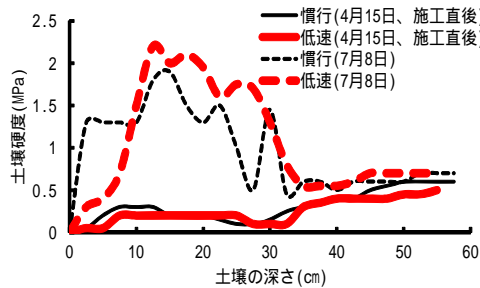


図2 サ'リ施工後の破砕部土壌硬度調査結果

雪踏みにより砕土性が向上した

時速2kmで施工してみると、遅く感じたが、亀裂がしっかり入っている気がする

JA青年部でも取り組み開始

## (2) 家族内ルールの作成によるゆとりの創出

表3 具体的なルール作成状況

後継者の有無	農場名	経営・生活面のルール化				具体的ルール作成
		作業計画共有	安全管理	休憩時間	家事分担	
無	A		R1	R1		R1
有	B	R2				
未定	C	R2	R2	R2	R2	R2
有	D	R2		R2		R2
有	E	R1			R1	R1
有	F				R1	R1

R1/R2: 達成



- ・家族で話し合えて、日々の不満や不安が解消された。
- ・家族が農業経営に積極的になったと思う。

## (3) 経営経済的評価

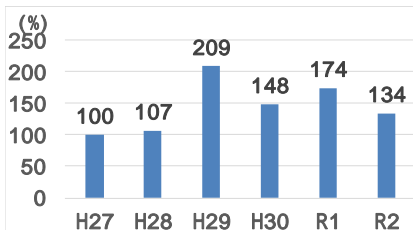


図3 農業所得の推移 (H27を100)

- ・水稻は技術改善目標を明確に示し、各農業者が努力したことにより収量、品質が向上したこと、単価が安定したことで粗生産額は前年度より39%増加した。
- ・たまねぎは、地下かんがいの利用が定着し、基盤整備後のほ場に合わせた管理が実践され、収量が高位安定した。これらにより、農業所得（H27対比）134%となった。

## 4 今後の活動

引き続き重点対象地区として主要作物の安定的な収量・品質の確保、省力化、効率化技術の導入推進および経営管理能力の向上による経営力の強化について支援を行う。